

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 枚方市
 実践研究校名 第三中学校

【公開授業】公開日：平成25年11月8日

対象学年：第3学年

<p>(教材・教科書名) NEW HORIZON ENGLISH COURSE 3 (東京書籍) (単元名) Speaking Plus 4 「電話での会話」</p>	<p>(本時の指導の目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違いを恐れず積極的に英語で言語活動に取り組む。 ・英語を正しく音読することができる。 ・相手に提案するとき用いる「want+人+to do」や相手に伝言を頼むときに用いる「tell +人+to do」は既習事項であるが、もう一度文の構造や電話でのやり取りの中で効果的に用いることができることを理解し、表現することができる。 ・教科書のモデル対話の内容を場面や状況とともに理解する。
--	---

(本時の授業において工夫した点)

- ・ペアでの音読練習の際に、電話での会話という設定を活かし、お互いの顔が見えないように背中合わせにさせて取り組ませた。
- ・「人に伝言する」内容の会話になるような、オリジナルのスキットをペアで考えさせた。

(授業を終えた教員の感想)

- ・スキット作成に使うワークシートに工夫が必要である。(ワークシートのモデル文の形式と、生徒たちがスキットを作成する際に書き込む部分の形式が異なり、生徒たちが書き辛そうだった。)
- ・授業内での NET との役割分担を明確にし、簡潔に、メリハリをつけて説明したり指示を出したりしていきたい。

【研究協議会】

<p>(テーマ) NET・JETによる効果的なTTの方法 ペア・グループ活動による学びあう授業について</p>	<p>(指導・助言者) 関西外国語大学 教授 松宮 新吾 氏</p>
---	--

(研究協議会で出された意見)

- ・作成したスキットの発表時間を増やした方がよい。
- ・研究授業のポイントである「伝えること」は、電話の場面だけでなく様々な学習の場面で設定できる題材なので、繰り返し学習させていくことが大切である。
- ・ペアによる背中合わせでの音読練習はすばらしいアイデアで、参考になった。
- ・英語の苦手な生徒も意欲的に活動に取り組み、クラス全体に積極性を感じた。
- ・JETの美しい発音を活かし、生徒への発音指導をもっと入れた方がよい。
- ・間投詞(‘Really?’や‘Sure.’等)をタイミングよく使えるようになることで、生徒たちの表現力がより豊かになり、自然な会話に近づく。

(まとめ)

1. すべての授業において、その時間のゴール設定は、生徒にとって明確な目標であることが望ましい。
2. 教師の授業デザイン力が重要である。
3. 学習形態は生徒同士で教えあう方が効果的である。
4. 英語学習では自然な形で編成されたクラスの方が、学びが高まることが多いという統計もある。